

絆

安中市立松井田中学校 学校通信



令和6年11月26日発行 NO.29

文責：校長

人権講演会が開催されました！

人権学習強調月間中である11月20日に、講師の方をお招きして、体育館で人権講演会が開催されました。今回、講師をお願いしたのは、SUBARU陸上競技部の唐澤 剣也選手です。唐澤選手は、先天性の網膜剥離のために10歳で視力を失いますが、その後、市民ランナーとして活躍し、東京パラリンピックの陸上男子5000mで銀メダルを獲得しました。その後、群馬県社会福祉事業団からSUBARUへ出向し、専門的な指導を受けて臨んだパリパラリンピックでも快走を見せ、見事2大会連続の銀メダルを獲得しました。



講演では、唐澤選手のパリパラリンピックに向けた思いや練習への取組などをお話しいただくとともに、サポート役(ガイドランナー)を務める小林光二さんから唐澤選手を支えることになった経緯や、全盲の唐澤選手への関わり方について説明がありました。また、お互いにロープを握って伴走する様子を披露していただくとともに、パリパラリンピックで獲得した銀メダルに触れる機会を設けていただきました。

今回の講演会を通して、生徒たちは障害のある方への理解や共生社会についての意識を深めることができました。また、「努力することによって夢に近づくことができる」という唐澤選手の言葉は、生徒達にとって大きな励みとなりました。

～ 生徒の感想 ～

目が見えないことは自分には想像ができない世界だけど、そんな状況でご飯を食べたり速く走ったりできるのは、いろいろな努力をしてきたからなのだろうと思いました。唐澤選手がパラリンピックに出れるほど大変な努力ができたのは、支えてくれる人が近くにいたからなのかなと思いました。人を支える事ができるように、今後の生活を見直したいです。(1年生)

唐澤選手が普段どれぐらい練習を行っているのか、練習をすると記録が伸びたりする、目標を高くもつと夢が叶うということを知ることができました。またガイドランナーの小林さんから、ガイドランナーとはどんなことをするのか聞いて、選手と一緒に走ることは分かっていたけど、細かいルールについては知らなかったので聞いてびっくりしました。また銀メダルを持たせていただいて、メダルの重さにとてもびっくりしました。(1年生)

視覚障害は目が見えなくて不自由なだけでなく、普通に片足立ちをしたのを目をつぶって片足立ちをしたときのバランスがうまくとれなくてそこも不自由なことがわかった。毎日朝と夜に1日2回も練習しているのがすごいと思った。また、やる理由が「順位を取れると楽しい」という気持ちにとっても共感したし、「応援してくれる人が喜ぶと嬉しい」という考え方がすごいと思ったので僕もそんなことをモチベーションにして何事にも取り組みたいと思った。また唐澤さんの言っていた活動を通して伝えたいことを僕も他の人に伝えて社会を変えていきたいと思ったし、それを意識してこれからの人生を過ごしていきたい。(1年生)



唐澤選手の話聞いて、世界を舞台に走ってみたいという夢を叶えたことがすごいと思いました。私は、唐澤選手の言っていた、「夢は頑張れば近づく」「努力は裏切らない」という言葉に感動しました。また、共生社会を作っていくことは、とても大切だと思いました。ガイドの小林コーチが話していた、瞬発的にわかりやすく、どうすればいいのかを教える、などガイドというのは、とても大変な仕事ではないのかと思いました。メダルには、いろいろなものが書かれていて、驚いたが、シンプルさもあるので、美しいと思った。あのメダルには、唐澤選手と、ガイドの小林コーチのいろいろな気持ちが込められている気がして、ぜひ、ロサンゼルスのパラリンピックも頑張ってもらいたいと思った。(1年生)

パラリンピックスポーツについての話を聞いて、唐澤選手は他の人よりできることが制限されている中、努力をして競技で功績を残してきたことから、努力は報われると話していました。パラリンピックで2位をとれるくらいの努力とは、どのくらいのことかわからないですが、それでも良い成績を残すため、私も唐澤選手のように努力していきたいと思いました。今回の学習で初めて知った、パラリンピック選手のガイドの人の仕事についても、とても勉強になりました。選手に指示を的確に瞬時に出すことが大事と言っていたので、とても難しいことだなと思いました。(2年生)



自分も習い事をしているとき、辛い時やキツイと思うことがあります。でも唐澤選手の話聞いていてどんな練習でも大会で結果がでると嬉しい気持ちになります。なのでどんなにキツイ練習でも耐えて今の自分よりももっと強くなって大会でいい結果が出るように毎日の練習で発揮していきたいと思った。(2年生)

目でバランスを取れないのにそんなに速く走れるのがすごいと思った。がむしゃらに練習したら足が速くなれることを知った。ガイドの人も端的に素早く選手に指示を出していてすごいと思った。目が見えない人を助け合う共生社会を僕達も目指したい。(2年生)

目標を高く持ち、努力し続けるとその目標に行けなくても限りなく近づくことができると学んだ。目をつぶって片足立ちをすると、目を開けているときに比べてとても難しかった。選手の努力とガイドランナーの気遣いによって成り立っている素晴らしいスポーツだとわかった。唐澤選手はご飯を食べるときひと粒も残さず食べる、と聞いたときはとても驚いた。これからの唐澤選手と小林選手の活躍が楽しみになった。(2年生)

僕は今回唐澤選手の話聞いて、障がいのある人への考え方が変わりました。今までは「できないことはなにか」「自分がやってあげないといけないことはなんだろう」という考えでした。唐澤選手が「世界」という舞台で活躍していること、どんな人でも夢を持ち、叶えることができると聞き、障がいのある人でも、健常者のように、それ以上にできることがあると知ることができました。僕が唐澤選手の言葉で印象に残っているのは、「もともと走るのが得意だったのか」という質問に対して、「好きだった」と答えていたことと、「どんな練習も苦しい、楽しくないものばかりだと思う。でも、そんな努力で、確実に目標に近づいている」といった言葉です。唐澤選手は苦しい練習も、みんなとは違う環境に生まれたとしても、それを、好きだと感じ、楽しむことができたから、いろんな人に勇気を与えているんだと思います。僕も、楽しい、好き、と感じたものでも、苦しいと感じたものでも、一生懸命やりたいです。(3年生)

本当に貴重な経験をさせていただきました。体育館を走っているとき、本当にスムーズに、速く走っていて驚きました。補助をする私達のような人間にも大切なことがたくさんあると、自分の目で見て理解することができました。私は今受験に向けて勉強をしています。唐澤選手の「夢を叶えるために努力ができる人は確実に夢に近づく」という言葉が励みになりました。本当にありがとうございました。(3年生)

“自分の弱みや強みを知ること、目標に向かって前向きに頑張れる”ということを唐澤選手に教えていただけただけなので、これからは目標を高くもって頑張っていこうと思いました。今まで知らなかったガイドランナーさんの仕事や、選手の生活を知ることができたので、これからパラリンピックで注目してみようと思いました。

(3年生)

今回お二人の講演を聞き、協力や努力、目標を高くもつことの大切さなどを学びました。パラリンピック現地での選手たちの様子やニュースではわからなかったこともたくさん知れて、心に残る1時間でした。4年後の大会もお二人のこと応援しています。(3年生)

～保護者の感想～

貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。パラリンピックでの裏話等々、普通では聞けない話、とても楽しかったです。お体に気をつけて、これからもがんばってください。本日はありがとうございました。

貴重なお話を聞くことができ、一生お目にかかることはないと思っていた銀メダルの重さを体験させていただいて、来てよかったなと思いました。

